

製品名: FAS-L ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10837**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	FASLG FASLG; APT1LG1; CD95L; FASL; TNFSF6; Tumor necrosis factor ligand superfamily member 6;
別名	Apoptosis antigen ligand; APTL; CD95 ligand; CD95-L; Fas antigen ligand; Fas ligand; FasL; CD antigen CD178
遺伝子 ID	356.0
SwissProt ID	P48023
免疫原	抗血清はヒト FAS リガンド由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

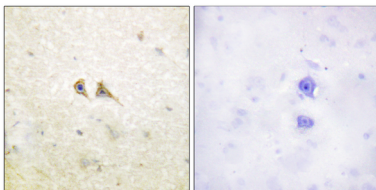
背景

この遺伝子は腫瘍壊死因子スーパーファミリーのメンバーです。コードされている膜貫通タンパク質の主な機能は、FAS への結合によって引き起こされるアポトーシス誘導です。FAS/FASLG シグナル伝達経路は、T細胞の活性化誘導性細胞死 (AICD) や細胞傷害性 T リンパ球誘導性細胞死など、免疫系の制御に不可欠です。また、いくつかの癌の進行にも関与していることが示唆されています。この遺伝子の欠陥は、全身性エリテマトーデス (SLE) の一部の症例と関連している可能性があります。選択的スプライス転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2014 年 11 月]、疾患: FASLG の欠陥は、自己免疫リンパ増殖症候群 1B 型 (ALPS1B) [MIM:601859]の原因です。カナレ・スミス症候群 (CSS) としても知られています。ALPS は、溶血性貧血と血小板減少症を伴う小児症候群であり、リンパ節腫脹と脾腫を伴う。機能: アポトーシスシグナルを細胞に伝達する受容体である TNFRSF6/FAS に結合するサイトカイン。細胞傷害性 T 細胞を介したアポトーシスと T 細胞の発達に関与している可能性がある。TNFRSF6/FAS を介したアポトーシスは、末梢寛容の誘導、成熟 T 細胞の抗原刺激による自殺、またはその両方に関与している可能性がある。デコイ受容体 TNFRSF6B/DcR3 への結合により、その効果が調整されます。オンライン情報: FAS リガンド エントリ, オンライン情報: FASLG 変異 db, PTM: N グリコシル化されています。PTM: 可溶性形態は、タンパク質分解処理によって膜形態から派生します。類似性: 腫瘍壊死因子ファミリーに属します。細胞内位置: おそらく細胞表面からの切断によって細胞外液に放出される可能性があります。サブユニット: ホモ三量体,

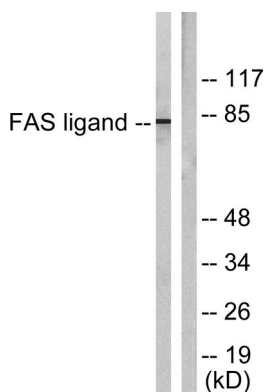
研究分野

MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用; アポトーシス抑制; ミトコンドリアのアポトーシス; アポトーシスの概要; ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性; 神経栄養因子; I 型糖尿病; 癌の経路; 自己免疫甲状腺疾患; 同種移植片拒絶; 移植片対宿主病;

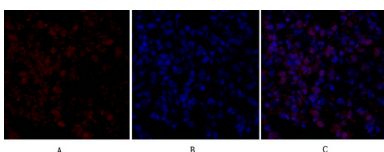
画像データ



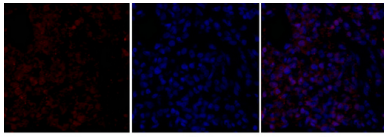
FAS リガンド抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



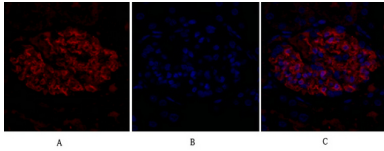
FAS リガンド抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



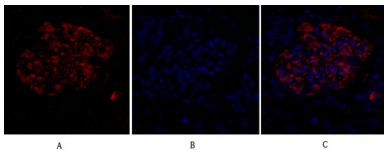
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクロール抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



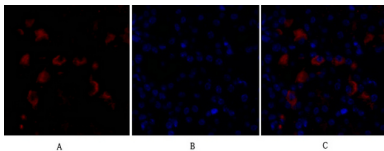
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



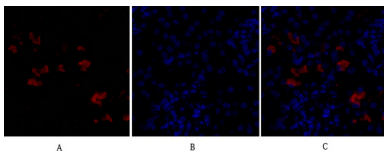
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



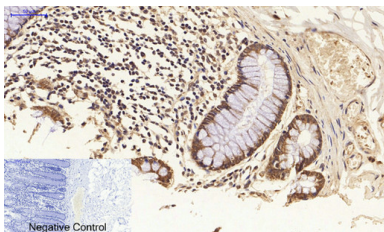
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, FAS-L ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学染色。1. FAS-L ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。